

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ジョイ・キッズ エール				公表日	令和7年 4月 1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○	整理整頓を心がけている。	まだまだ改善できるところがあるので、日々行っていきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	簡易テントや折り畳みマットで壁を作ったりと個室空間を提供できるようにしている。	間取りを変えるのは難しいので、児童の気持ちを切り替えられる空間を考えていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ラインLineやミーティングを通して、日々振り返りと改善を行っている。	意見を言うのが、どうしても限られてくるので、全員の意見が反映できるようにしていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ラインLineや連絡帳を通して、反省と改善を伝えている。	引き続き、ラインLineや連絡帳を通して、反省と改善を伝えている。満足度改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ラインLineやミーティングを通して、日々振り返りと改善を行っている。非常勤の先生の意見も重視している。	引き続き、ラインLineやミーティングを通して、日々振り返りと改善を行っている。非常勤の先生の意見も重視していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	非常勤の先生の意見を重視することで、客観的意見をつのっている。	経済的な面で第三者評価は難しいと考えている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		有料のオンライン研修に参加し、オンライン動画による研修をいつでも視聴できるようにしている。	引き続き、有料のオンライン研修に参加し、オンライン動画による研修をいつでも視聴できるようにする。新人研修に力をいれる。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成・公表している。	引き続き、随時、更新していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		日々、ミーティングを行って話し合っている。	日々、ミーティングを行って話し合うとともに、職員の療育の質向上に努めていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々、ミーティングを行って話し合い、統一した支援が行えるよう心掛けている。	日々、ミーティングを行って話し合うとともに、職員の療育の質向上に努めていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々、ミーティングを行って話し合い、統一した支援が行えるよう心掛けている。	日々、ミーティングを行って話し合うとともに、職員の療育の質向上に努めていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化された指定されたアセスメントとそこから当教室用に特化簡易化されたアセスメントを行い、ミーティングしている。	日々、ミーティングを行って話し合うとともに、職員の療育の質向上に努めていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		日々、5領域を意識してミーティングを行って話し合っている。	日々、ミーティングを行って話し合うとともに、職員の療育の質向上に努めていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		持ち回りで活動、製作やイベントの立案を行っている。	児童の満足度が改善するよう心掛けていく。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		持ち回りで活動、製作やイベントの立案を行っている。	児童の満足度が改善するよう心掛けていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		日々、5領域を意識してミーティングを行って話し合っている。	日々、ミーティングを行って話し合うとともに、職員の療育の質向上に努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日々、ミーティングを行って話し合い、統一した支援が行えるよう心掛けている。	日々、ミーティングを行って話し合うとともに、職員の療育の質向上に努めていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日のライン L i n e や次の日のミーティングで話し合っている。情報の共有は常に意識している。	日々、ミーティングを行って話し合い、統一した支援が行えるようつとめていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		その日のライン L i n e や次の日のミーティングで話し合っている。情報の共有は常に意識している。	日々、ミーティングを行って話し合い、統一した支援や支援の質向上が行えるようつとめていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		日々の保護者とのやりとりや面談を通して、適切な見直しを行っている。	適切な見直しができるよう、保護者様や利用児童様の変化に気づけるように努めていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供を意識して支援を行っている。	より支援の質や4つの基本活動の理解度を深めていく必要がある。地域交流の機会が難しい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		おやつや活動などにおいて、自己選択できるように意識して支援している。	引き続き、行い質を高めていきたい。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		日々、ミーティングを行って話し合い、統一した支援が行えるよう心掛けている。非常勤の先生の意見も重視している。	引き続き、全職員が会議などで意見を伝えられるようにしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療や支援員との連携体制は整えている。	連携の輪を広げていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		ライン L i n e、電話や連絡帳を通して日々行っている。	引き続き、行い、情報の共有をしっかりと行い、満足度を高めていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新1年生が通所する際には常に行っている。	引き続き、就学前の支援内容を引き継げるようにしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		児童がはやく新しい環境に馴染めるよう性格や特性などの情報提供を行っている。	引き続き、児童がはやく新しい環境に馴染めるよう情報提供を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		支援員に電話で助言をいただいている。	引き続き、支援員に電話で助言をいただき、必要に応じて担当者会議の開催もお願いしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		P T A主催の催しやイベントには参加するようになっている。	引き続き、P T A主催の催しやイベントには参加し、交流の輪が広がるよう情報をえられるようにしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		研修や講義のお知らせがあれば積極的に参加している。	ホームページを定期的に確認し、協議会の活動内容を見て、参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		介助方法やお子さんへの言い回しの方法などは日々のやりとりの中で行っている。保護者会を通して行っていきたい。	引き続き、保護者会を通して行っていきたい。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		面談時や日々の連絡を通して行っている。	引き続き、面談時や日々の連絡を通して行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談時や日々の連絡を通して行っている。	引き続き、面談時や日々の連絡を通して行っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		面談時や日々の連絡を通して行っている。	引き続き、面談時や日々の連絡を通して行っていく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ラインLineにて、日々、保護者からの質問に個別に対応している。	引き続き、ラインLineにて、日々、保護者からの質問に個別に対応していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		不定期だが保護者会を開催するようにしている。	引き続き、保護者会を定期的に行えるようにしていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		ライン（Line）や電話を利用して、営業時間外でも迅速に対応している。	引き続き、ライン（Line）や電話を利用して、営業時間外でも迅速に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		活動の写真を定期的に保護者に送っている。	引き続き、活動の写真を定期的に保護者に送っている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		マニュアルやガイドラインに従い注意している。	引き続き、マニュアルやガイドラインに従い注意して行く。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ラインLineや写真、絵カード、マカトンサインや文字盤などを利用している。	引き続き、ラインLineや写真、絵カード、マカトンサインや文字盤などを利用して行く。保護者の助言も聞く。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域のお神輿など催事があれば参加している。	引き続き、地域の催事があれば参加していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		ジョイキッズ通信（月のお知らせ）や活動報告で伝えている。	保護者様にも伝わりやすいようにジョイキッズ通信（月のお知らせ）や活動報告で伝えていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		ガイドラインに従い定期的に行っている。	引き続き、ガイドラインに従い定期的に行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		面談時や連絡帳のやりとりで確認している。	引き続き、面談時や連絡帳のやりとりで定期的に確認していく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		面談時や連絡帳のやりとりで確認している。	引き続き、面談時や連絡帳のやりとりで定期的に確認していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		ガイドラインに従い定期的に行っている。	引き続き、ガイドラインに従い定期的に行っていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		ジョイキッズ通信（月のお知らせ）や活動報告で伝えている。	保護者様にも伝わりやすいようにジョイキッズ通信（月のお知らせ）や活動報告で伝えていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		その日のラインLineや次の日のミーティングや会議で話し合っている。情報の共有は常に意識している。	引き続き、その日のラインLineや次の日のミーティングや会議で話し合っていく。情報の共有は常に意識し、帆常勤にも周知。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		ガイドラインに従い定期的に行っている。	引き続き、ガイドラインに従い定期的に行っていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		面談時に、装具、車椅子のベルトや天板などを確認し、個別支援計画書に記載している。	面談時に、装具、車椅子のベルトや天板などを確認し、医師や保護者の指示なのかなどより詳細に個別支援計画書に記載していく。	